

『退職後になかった夢 — 水彩画と陶芸を始めること』

雨宮敏文

長年働き続けた日々がやっと終わり、ようやく自由な時間が訪れたのは、まさにコロナ禍で生活が大きく変わろうとしている頃でした。

外出を控え、友人との交流もままならない日々のなかで、第二の人生をどう生きるのか、答えはすぐには見つかりませんでした。

そんな日々の中で、ふと中学生のころの美術の授業を思い出し、描いた風景画を先生や友人に褒められたあの瞬間の喜びが、今も心の奥に残っていることに気づいたのです。

これまでも時々、「もう一度、絵を描きたい」と思いながらも、仕事に追われて筆を握る時間はありませんでした。

ある日、新聞に入っていたカルチャーセンターのチラシ広告を見て、これまでの夢をかなえてみようと決心しました。

まず水彩画教室に通い始めると、久しぶりの筆に胸が躍ったのを今でも鮮明に覚えています。

思い通りにデッサンができず、また筆が動かず悩む時期もありました。しかし、山や川、雲や草木の色を思ったように描き出せたときの喜びは格別でした。



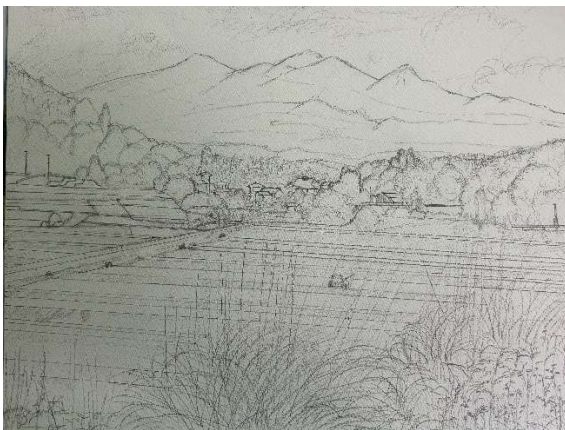
【五彩展：水彩画】 『ふるさとの林と川』(F 4号)

また友人の誘いで陶芸教室にも挑戦し、土を手のひらで形作る時間は、自分の思いを手で表現する楽しさを教えてくれました。
焼き上がった器には、想像をはるかに超えた形や色、世界にひとつだけの自身の表情をもつ作品を手にする喜びも知ることができたような気がします。



【五彩展：陶芸作品（ぐい呑み他）】

趣味を通じて、新しい友人たちとの出会いもありました。
互いの作品を見せ合い、感想を交わす時間は心を豊かにしてくれます。
今年の5月に初めて参加した美術部の日野春でのスケッチ合宿では、自然の風景を自由に描く楽しさも知ることができました。
これまでも旅先で街角に並ぶ小さな絵を購入したり、美術館を巡ったりした体験も、創作への刺激となっています。



【スケッチ合宿でのデッサン】



【水彩画】 『八ヶ岳の麓』（F 6号）

今年9月初めて陶芸教室の皆さんとの展示会『五彩展（土に遊ぶ）』（我孫子駅近くのギャラリー）に出展する機会を得ました。

ほとんどは陶芸作品でしたが、水彩画も出展させていただきました。

また美術部の皆さんも見学に来ていただき、更に創作意欲が増すエネルギーをいただいたように思います。



【五彩展にて美術部の皆さん及び来客者と】

退職後になかった夢 — それは、ただ趣味を始めることではなく、中学生のころの思い出と向き合い、新たな友との交流において、自分自身の色やタッチで自由に描き、また形にする喜びを知ることだと思っています。

筆と土を通して、自分だけの小さな世界を広げ、これからも心豊かな日々を重ねていきたいと思っています。

以上